

守秘区分	公開
作成部門	日本製鉄株式会社
作成日	2024年11月29日



#### <2023年造成藻場の面積に関する資料>

●調査実施日： 2024年4月18、23、24、26日（潜水目視観察・写真とビデオ撮影）  
●対象藻場： ベースラインと同じ（ベースライン設定の資料にて、詳細を記載）  
●面積算出方法ならびに対象生態系の判断方法： 当該海域にて造成した藻場において、潜水調査を実施した。藻場調査は、図1に示す（黒太線内）の範囲内の岸沖方向に約50m間隔で測線を計18本配置した。測線の始点は日本製鉄(株)西護岸から沖側に140m地点、終点は沖側に310m地点とし、測線の長さは170mとした。造成藻場内においてダイバーが大型海藻類の生育範囲、被度を潜水目視観察によって詳細に確認した。合わせて、写真撮影及びビデオ撮影を行った。目視調査は、ダイバーが測線上を泳ぎながら、幅2m（両側1mずつ）、長さ5mを1区画として、区画内のワカメの被度と基盤（ビバリー® ロック）の有無を記録し、ワカメ以外にも大型海藻類が生育している場合には、種名と被度を記録した。写真・ビデオ撮影は、測線上のワカメの生育状況を写真およびビデオで記録した。写真は各測線で1区画ごとに撮影し、ビデオは各測線上を連続的に撮影した。生育していない場所や藻場境界部が確認できる場合にも撮影した。調査範囲内を10m×50mメッシュで区切り、被度区分ごとに色分けして図示した（図1）。被度区分は0%、5%未満、5-25%、25-50%、50-75%、75-100%の6区分とした（図2）。

#### ●活動範囲の判断および算定：

- ・活動範囲は、ベースラインと同様の方法で判断した。
- ・2024年は、潜水目視観察の結果、ワカメが主として繁茂していた。以上結果を踏まえ、藻場タイプを判別した（図1、図2）。上記の各測線において観察した結果から、下記の項目について解析・整理した。
- ・ワカメ等の大型海藻類の分布図
- ・ビバリー® ロックの造成範囲とワカメ等の大型海藻類の分布の関係整理

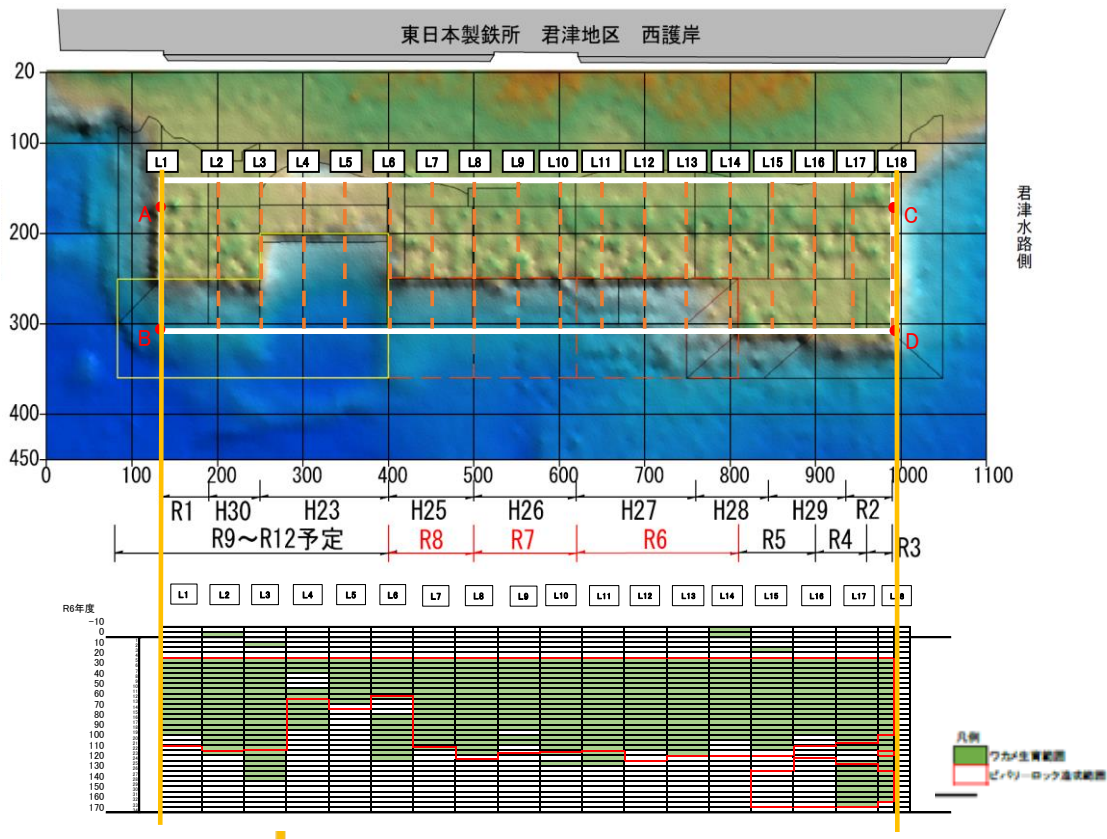


図1. 上の図はカルシア改質土によって造成した浅場対象海域（日本製鉄株式会社東日本製鉄所君津地



区西護岸沖の海岸線（幅）900m、沖合（縦）170mの範囲）、下の図は対象海域中でビバリーロックを敷設した部分（赤枠内）と藻場が確認された部分（緑色）を示す。

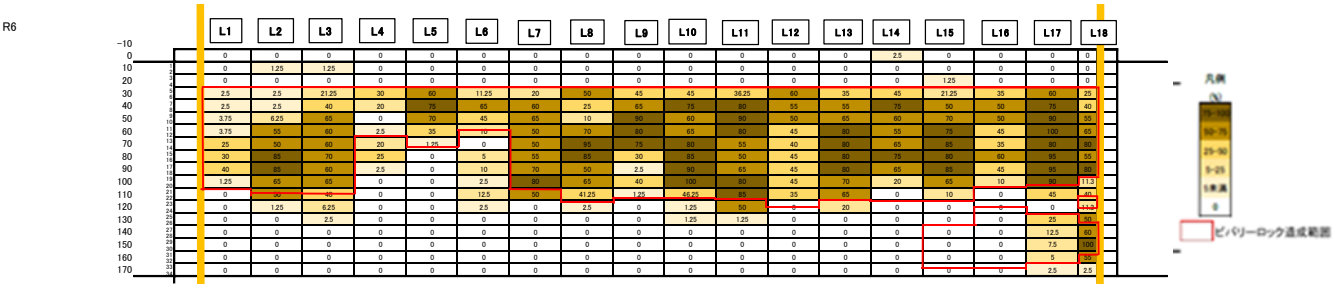


図 2. 対象海域内におけるワカメ藻場の面積を被度別の 6 段階（0%、5%未満、5-25%、25-50%、50-75%、75-100%）で示した図。

・上記結果から藻場の実勢面積を求めた（表 1）。なお、被度区分のイメージについては図 3 に示す通りである。

表 1. ワカメの実勢面積

被度区分	面積 (ha)	被度（中央値）	実勢面積 (ha)
0%	7.62	—	—
5%未満	1.15	2.5%	0.0288
5-25%	0.99	15%	0.1485
25-50%	1.11	37.5%	0.4163
50-75%	2.79	62.5%	1.7438
75-100%	1.85	87.5%	1.6188
合計	15.51		
ワカメ生育面積合計 （被度 0%を除いた面積）	7.89	—	3.956

守秘区分	公開
作成部門	日本製鉄株式会社
作成日	2024年11月29日

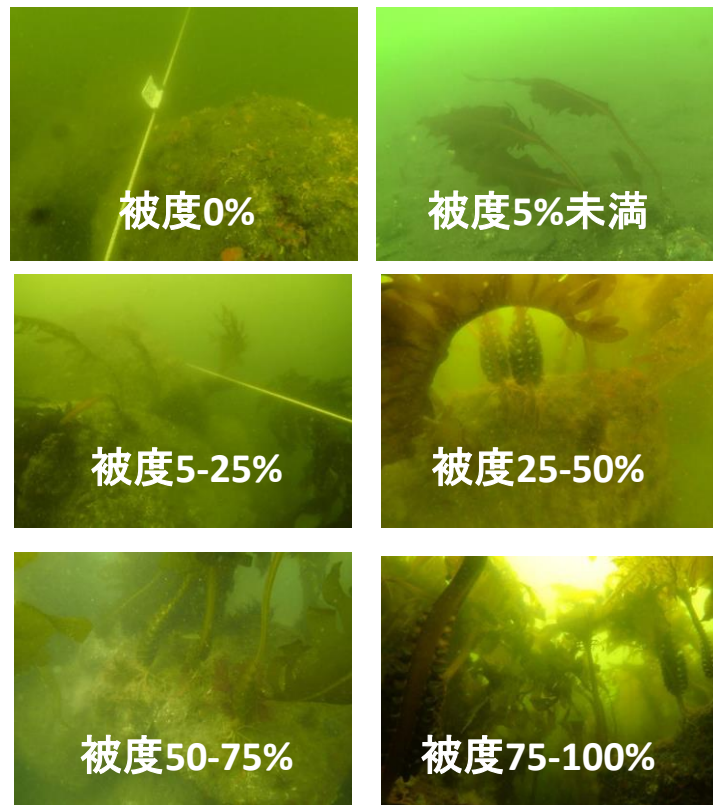


図3. ワカメの被度別写真。